

## 山守さんの粋

金比羅のハイキングコース脇の山林、登山者の邪魔にならないように草刈が行われていました。写真では非常に分かりにくいのですが、ユリがぼつりと残されています。森を育てる草刈なら、わざわざ残すこともないのですが、「わざわざ残しているところがすごい！」と、感激しました。人の暮らしと自然が共存していく術の一つと考えます。

このような粋なはからいが、あきる野の生物多様性を底辺から支えるのだと感じます。このことは、ただ花をかわいがる優しさや自然を愛する心と理解することよりも、私、杉野は、お洒落で「粋なはからい」と感じます。ただ自然をそのままに保護することが必要なケースもありますが、多くの森は人と接点を持っています。人と自然の距離感・自然との関わり方をこのハイキングコース脇のヒノキ林で教わったと思います。

(杉野)



## 金比羅の山賊！

金比羅山～アジサイ山にかけて飛翔しているトビがいます。私が昼食のサンドイッチを食べているときに背後から音もなく飛んできて右肩越しに右手に持ったサンドイッチを盗んでいきました。一瞬で手からサンドイッチが消えて何が起きたか分からなかったぐらい巧な盗みでした。鎌倉や湘南のトビが観光客の食べ物を奪うのはニュースで知っていたのですが、あきる野のトビまで、山賊行為をするとは、驚いた次第です。

皆さんも、山でお弁当を広げる時、十分に気を付けてください。

(杉野)



↑人の弁当を奪い飛び去る「トビ」

あきる野の春の山では

が咲いています。

ギンラン→



←キンラン



## 残念なこと

あきる野では少なくなった明るい広葉樹林や草地に生える「キンラン」などは、まだまだ目にすることができます。

しかし、残念なことに、盗掘された跡も目にします。掘り後を見ると怒りすら感じます。

道草刈で、ユリを残すような粋な方がいる一方で、山野草を盗掘する「無粋」な輩が山を歩いていること、非常に残念に思います。

(杉野)



↑掘った穴を埋戻してある



↑スコップで穴を掘った跡



## 第4期のコレンジャー20名が集う

あきる野で、今年1年、自然と正面から向き合い、学習や発見、理解、時には汗を流して色々な経験を経て、本当の自然の友だちとして、将来、自然の中で活躍して欲しいと願っています。

継続したメンバーたちはリーダーとして、新規のメンバーには新たな発見や感動を期待しています。

(杉野)